



令和 6 年 2 月 1 日  
唐 津 海 上 保 安 部

## 「令和5年 船舶事故・人身事故発生状況（速報）」

令和5年に発生した唐津海上保安部管内での事故発生状況をお知らせします。

なお、本値は速報値であることから、確定後の値と異なる場合があります。

### 1. 船舶事故発生状況

- 船舶事故の隻数 21隻(昨年比**2隻増加**) . . . . . 図 1-1

このうち、死者・行方不明者0人（6年連続**0人**）

- プレジャーボートの事故隻数は14隻（昨年比**3隻増加**）・ 図 1-2
- 漁船の事故隻数は4隻（昨年比**1隻減少**） . . . . . 図 1-12
- 水上オートバイによる事故は2隻（昨年比**2隻増加**） . . . 図 1-14

### 2. 人身事故発生状況

- 人身事故者数 17人(昨年比**1人増**) . . . . . 図 2-1

このうち、死者・行方不明者 13人（昨年比**3人増**）

- マリンレジャーによる事故者数 8人（昨年比**2人増**） . . 図 2-5

このうち、死者・行方不明者数 5人（昨年比**2人増**）

### 3. 若年層（中学生以下）の事故者数

- 2年連続で事故者数 0人 . . . . . 図 2-13

昨年比：令和4年との比較

# 「令和5年海難発生状況（速報資料）」

## 目次

### 第Ⅰ 船舶事故発生状況（速報）

I - 1	船舶海難発生状況〔過去10年(H26～R5)〕	…………… P 1
I - 2	船舶種類別発生状況の推移〔過去10年(H26～R5)〕	…………… P 1
I - 3	海難種類別発生状況〔R5・過去10年(H26～R5)〕	…………… P 2
I - 4	船舶種類別発生状況〔R5・過去10年(H26～R5)〕	…………… P 2
I - 5	プレジャーボート海難種類別発生状況〔R5・過去10年(H26～R5)〕	…………… P 3
I - 6	プレジャーボート運航不能海難内容別発生状況 (R5)	…………… P 3
I - 7	プレジャーボート海難月別発生状況〔R5・過去10年(H26～R5)〕	…………… P 4
I - 8	漁船海難種類別発生状況〔R5・過去10年(H26～R5)〕	…………… P 4
I - 9	水上オートバイ海難種類別発生状況〔R5・過去10年(H26～R5)〕	…………… P 5
I - 10	水上オートバイ運航不能海難種類内容別発生状況 〔R5・過去10年(H26～R5)〕	…………… P 5

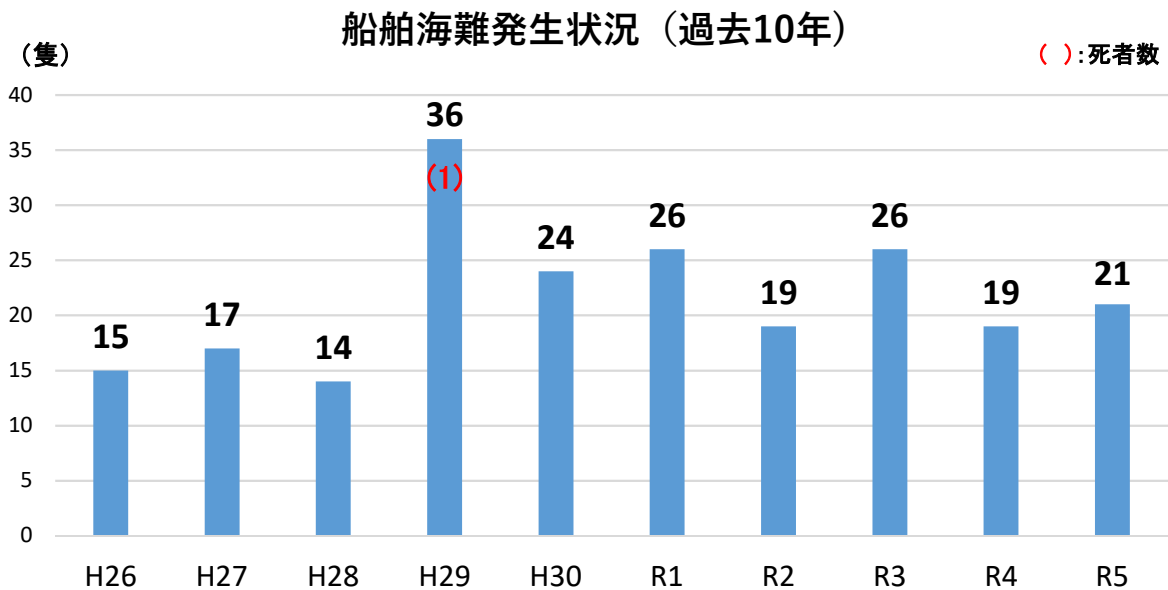
### 第Ⅱ 人身事故発生状況（速報）

Ⅱ - 1	人身海難発生状況〔過去10年(H26～R5)〕	…………… P 6
Ⅱ - 2	人身海難内容別死者数の推移〔過去10年(H26～R5)〕	…………… P 6
Ⅱ - 3	人身海難区分別発生状況〔R5・過去10年(H26～R5)〕	…………… P 7
Ⅱ - 4	マリンレジャーに伴う事故者数の推移〔過去10年(H26～R5)〕	…………… P 7
Ⅱ - 5	マリンレジャーに伴う海浜事故発生状況（活動別） 〔R5・過去10年(H26～R5)〕	…………… P 8
Ⅱ - 6	釣り中の事故者数の推移〔過去10年(H26～R5)〕	…………… P 8
Ⅱ - 7	釣り中の場所別発生状況〔過去10年(H26～R5)〕	…………… P 9
Ⅱ - 8	釣り中の死亡事故発生状況〔過去10年(H26～R5)〕	…………… P 9
Ⅱ - 9	釣り中の行動形態と死者・発生率〔過去10年(H26～R5)〕	…………… P10
Ⅱ - 10	若年層（中学生以下）の事故者数の推移〔過去10年(H26～R5)〕	…………… P10

## 第 I 船舶事故発生状況（速報）

### I - 1 船舶海難発生状況〔過去 10 年（H26～R5）〕

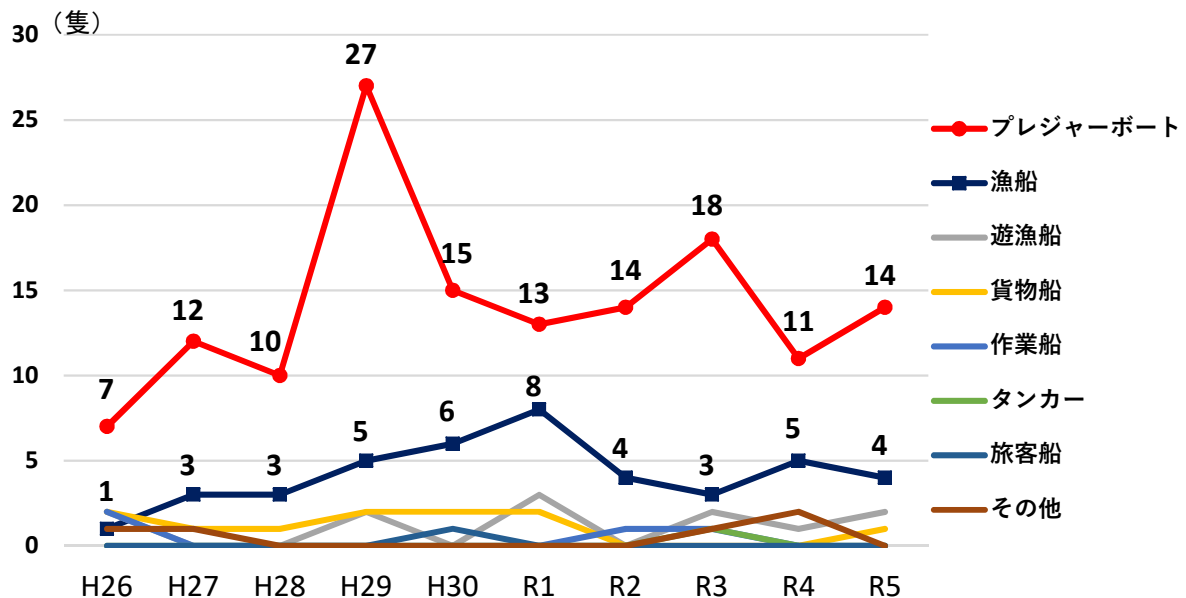
図 1-1



➤ 令和5年の船舶海難隻数は21隻でした。

### I - 2 船舶種類別発生状況の推移〔過去 10 年（H26～R5）〕

図 1-2



➤ 令和5年の船舶種類別の隻数は、プレジャーボート14隻が最も多く、次いで漁船4隻の順となっています。

➤ 過去10年間においても、プレジャーボートが最も多く、次いで漁船の順となっています。

I - 3 海難種類別発生状況〔R5・過去10年（H26～R5）〕

海難種類別（令和5年）

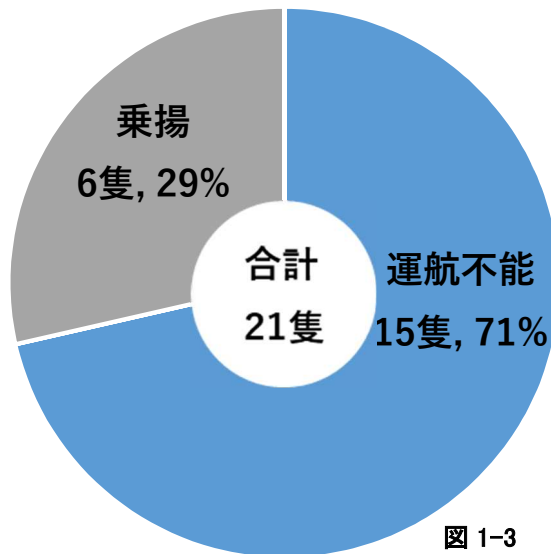


図 1-3

海難種類別（過去10年）

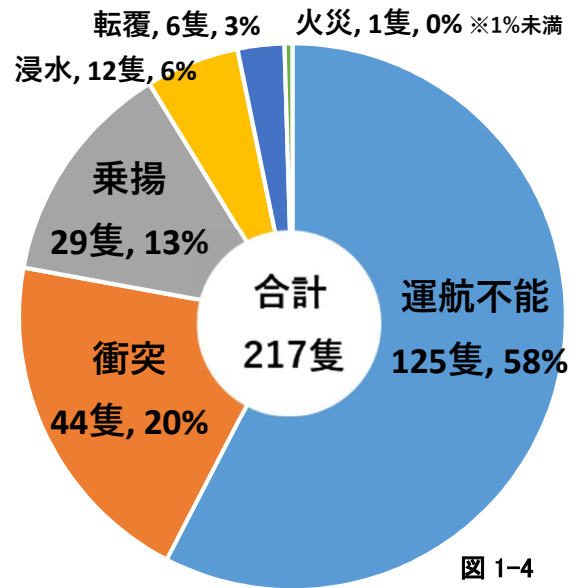


図 1-4

- 令和5年は、海難種類別では、運航不能が7割以上を占め、次いで乗揚の順に発生。
- 過去10年間においては、運航不能、衝突、乗揚の順となっています。

I - 4 船舶種類別発生状況〔R5・過去10年（H26～R5）〕

船舶種類別（令和5年）

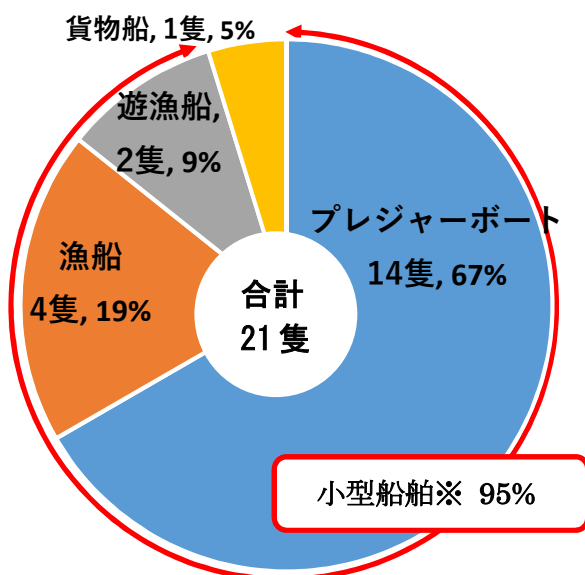


図 1-5

船舶種類別（過去10年）

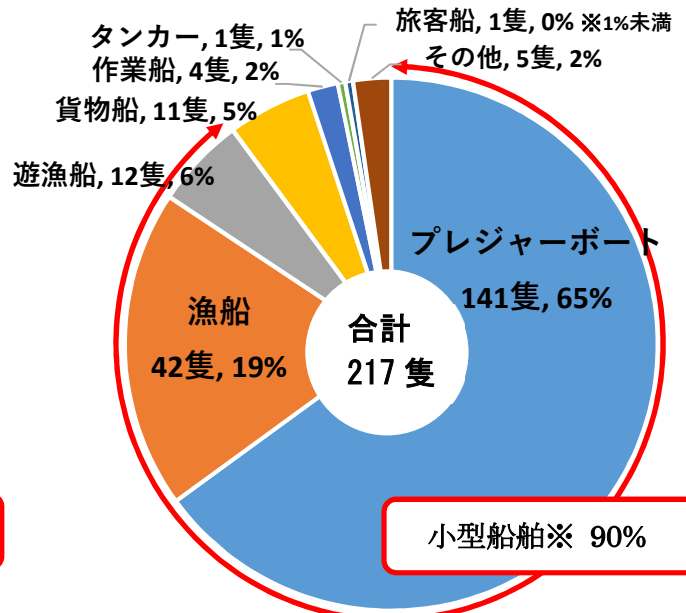


図 1-6

令和5年の※小型船舶の海難が占める割合は、過去10年間と同様、全体の9割以上を占めています。※ 小型船舶：総トン数20トン未満の船舶（プレジャーボート、漁船、遊漁船等）

1-5 プレジャーボート海難種類別発生状況〔R5・過去10年（H26～R5）〕

P B海難種類別（令和5年）

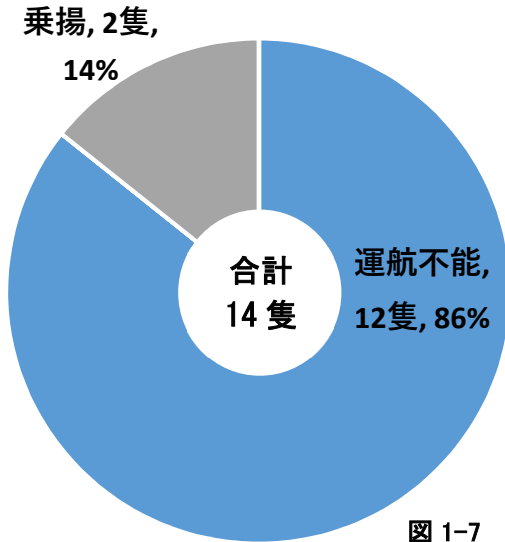


図 1-7

P B海難種類別（過去10年）

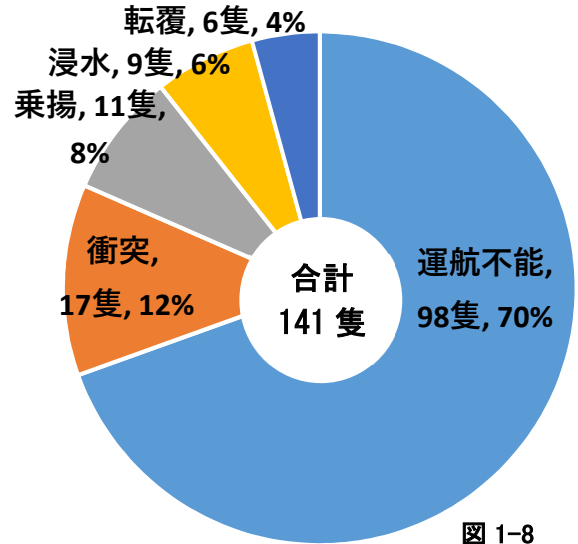


図 1-8

※ 運航不能：機関故障、バッテリー過放電、燃料欠乏

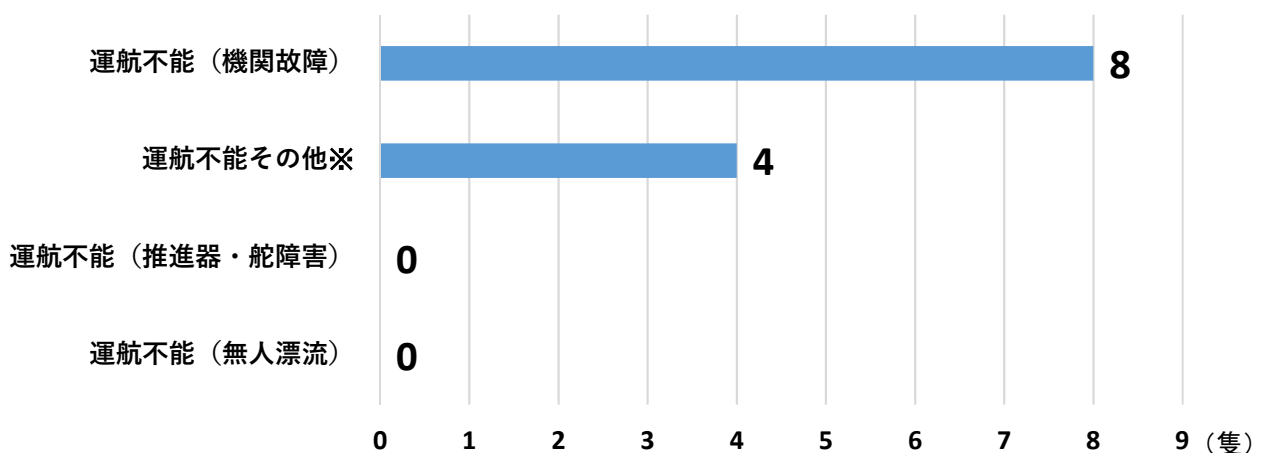
※ PB：プレジャーボート

- 令和5年のPBの海難種類別では運航不能が8割を超え例年よりも高い割合となっています。
- 過去10年を見ても運航不能は高い割合を占めています。

1-6 プレジャーボート運航不能海難内容別発生状況（R5）

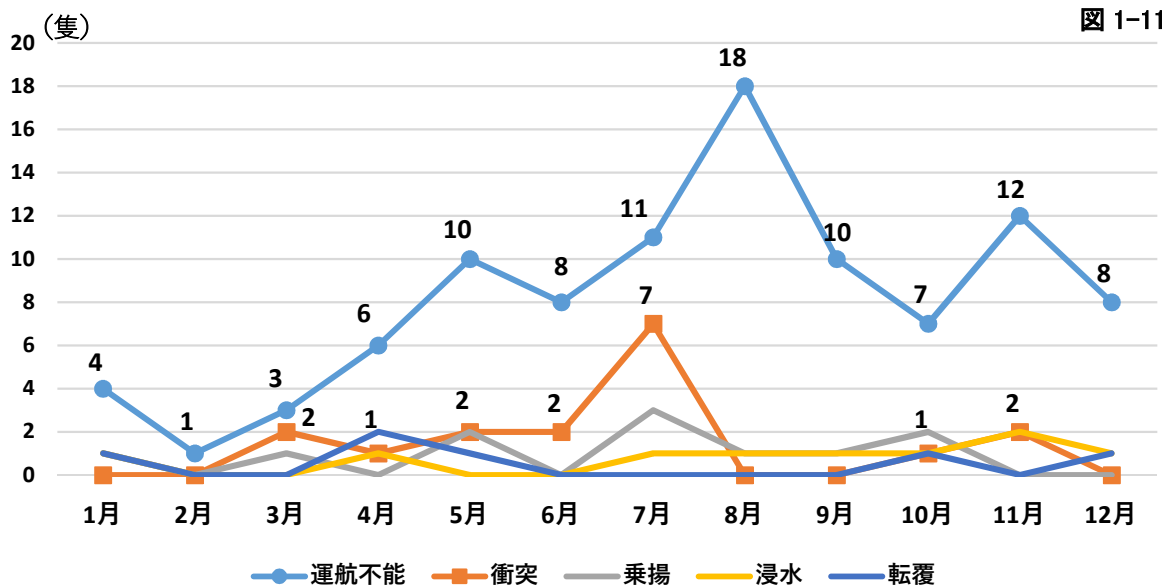
運航不能内容別（令和5年）

図 1-10



- プレジャーボートの運航不能では、機関故障が最も多く発生しています。  
※運航不能その他内訳：荒天難航2隻、機関取扱不注意1隻、バッテリー過放電1隻
- 機関故障の原因として、整備不良や老朽衰耗も原因となっており、日頃の点検整備、発航前点検の徹底が必要です。

1-7 プレジャーボート海難月別発生状況〔過去10年（H26～R5）〕



➤ 過去10年間の推移で見ると、8月の夏場が最も多く発生しており、レジャーシーズンの春季、秋季も比較的高い推移となっております。

1-8 漁船海難種類別発生状況〔R5・過去10年（H26～R5）〕

漁船海難種類別（令和5年）

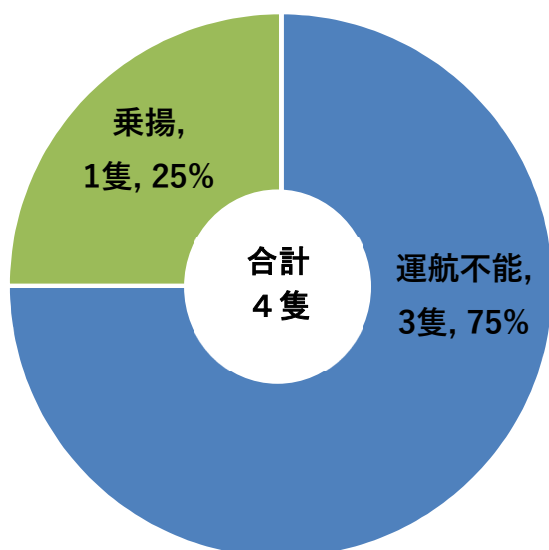


図 1-12

漁船海難種類別（過去10年）

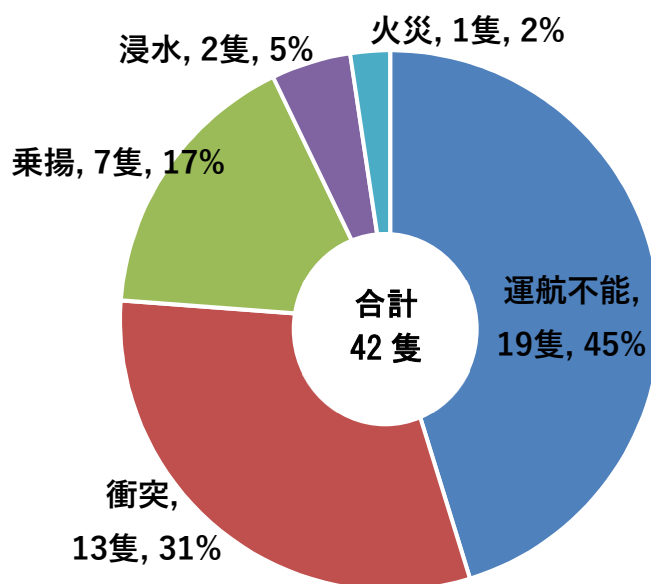
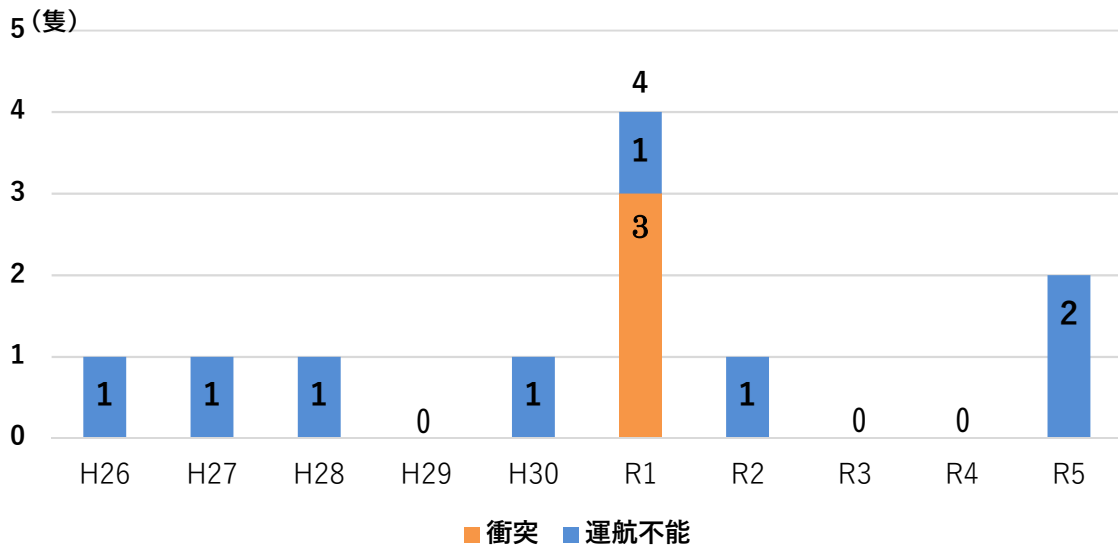


図 1-13

➤ 令和5年は運航不能が最も多く、次いで乗揚の順に発生しています。  
 ➤ 過去10年間、漁船の船舶海難における死者・行方不明者は発生しておりません。

1-9 水上オートバイ海難種類別発生状況〔過去10年（H26～R5）〕

図 1-14



- 令和5年は荒天難航による2隻の事故が発生しました。
- 水上オートバイの事故防止について、特に夏のシーズン前に自治体、民間ボランティア団体、関係機関と連携した危険走航行抑止訓練を実施のうえ、メディアを広く活用した注意喚起を行うなど引き続き事故防止に取り組んで参ります。

1-10 水上オートバイ海難種類別発生状況〔過去10年（H26～R5）〕

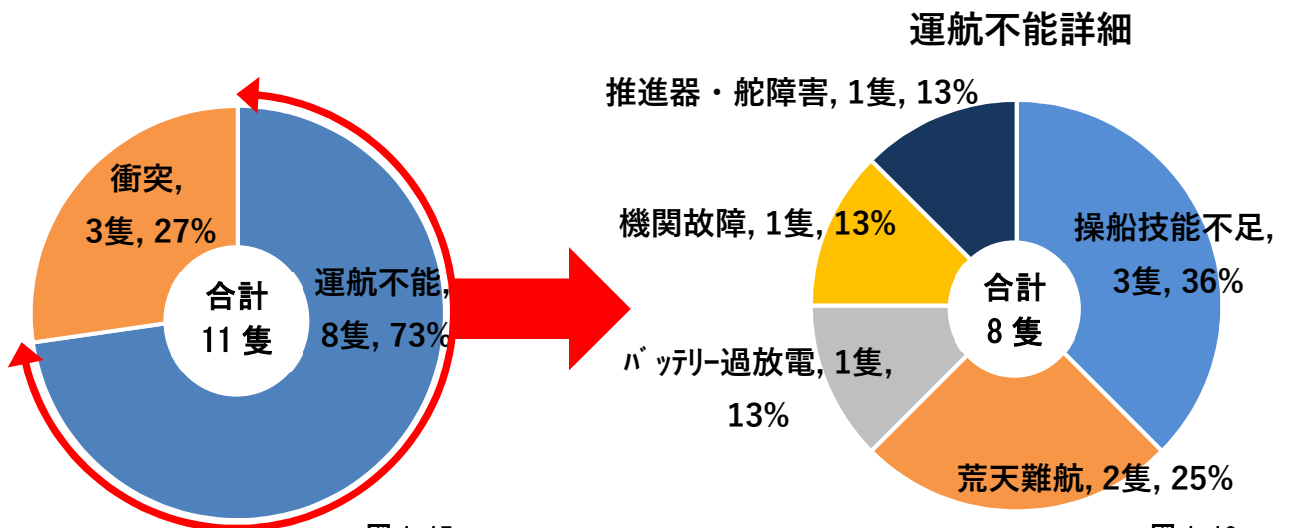


図 1-15

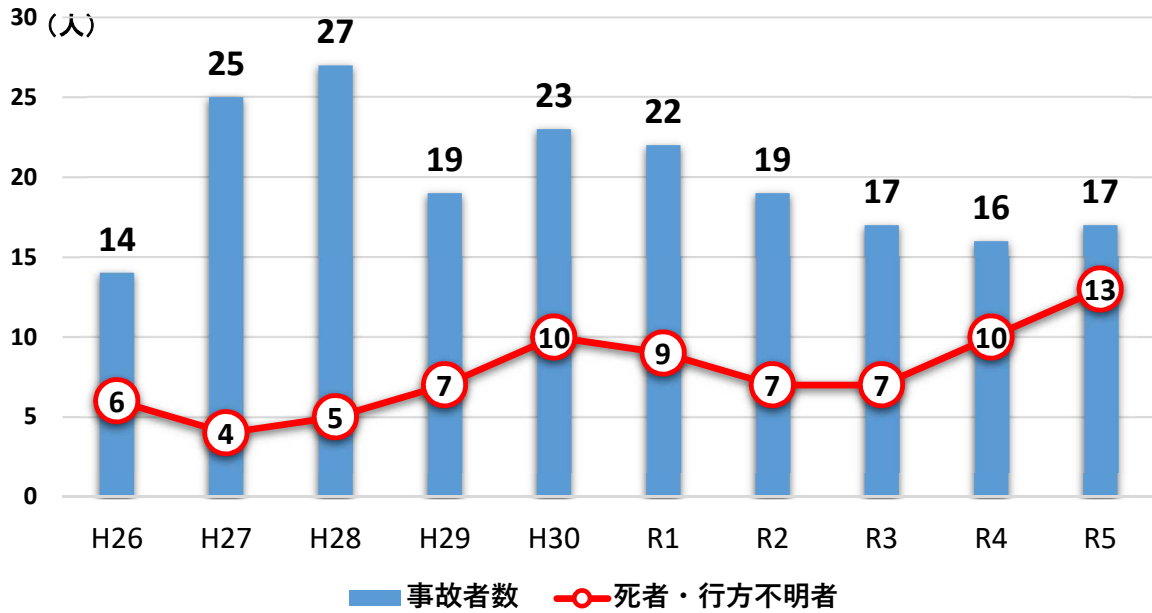
図 1-16

- 過去10年を見ても運航不能が7割を占め最も多い傾向となっております。
- 運航不能の詳細について、
  - ・操船技能不足は、誤って急発進させ無人航行となったものや、転覆状態からの復原能力不足。
  - ・荒天難航は、2隻が海上時化のなか走航、転覆し2名が亡くなる事故が発生。
  - ・推進器障害は、自船の海水吸入口にロープを吸い込み航行不能となったもの。

## 第Ⅱ 人事故発生状況（速報）

### Ⅱ－1 人身海難発生状況〔過去10年（H26～R5）〕

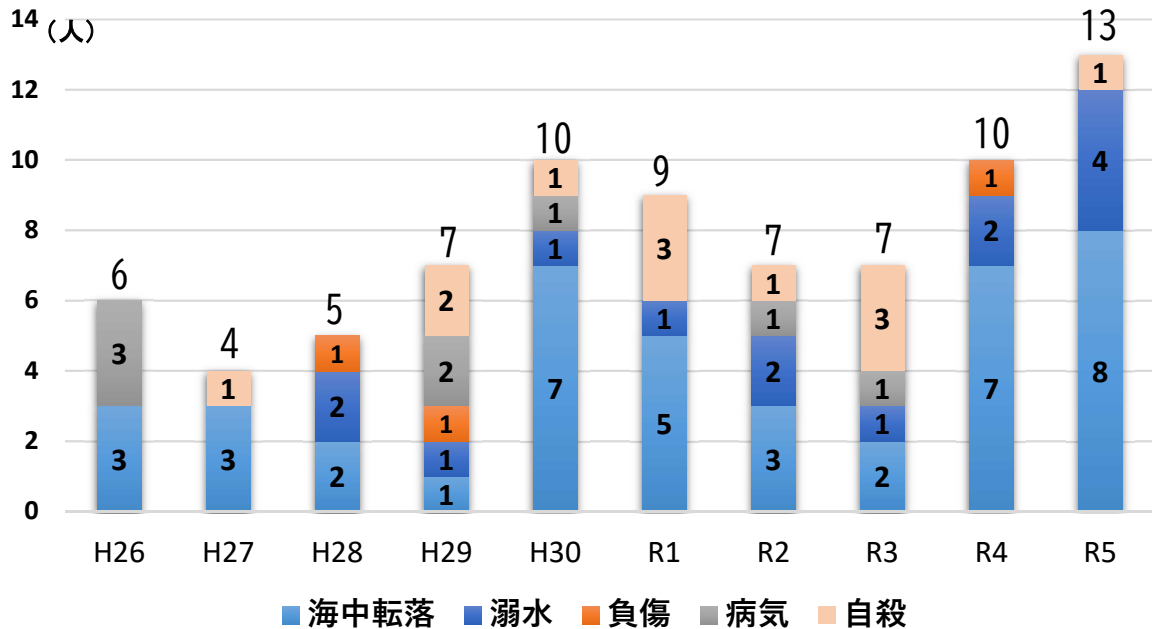
図 2-1



- 事故者数は、平成28年をピークに減少傾向で令和3年以降はほぼ横ばいを推移。
- 令和5年の死者数・行方不明者数は、過去10年で最も多い傾向となっています。

### Ⅱ－2 人身海難内容別死者数の推移〔過去10年（H26～R5）〕

図 2-2



- 令和5年は海中転落が8人（前年比1人増）となっており、溺水が4人（前年比2人増）自殺が1名となっております。
- 令和5年は過去10年で海中転落が最も多く発生しております。



## II - 3 人身海難区分別発生状況〔過去10年（H26～R5）〕

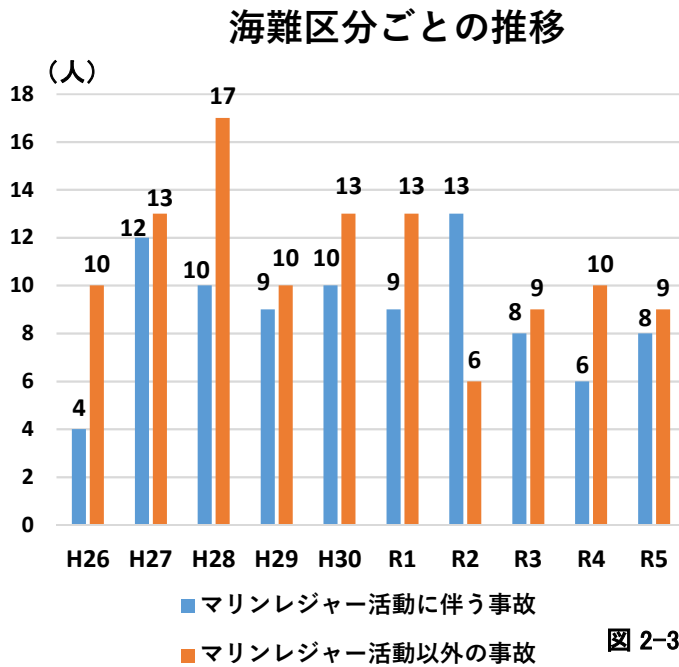


図 2-3

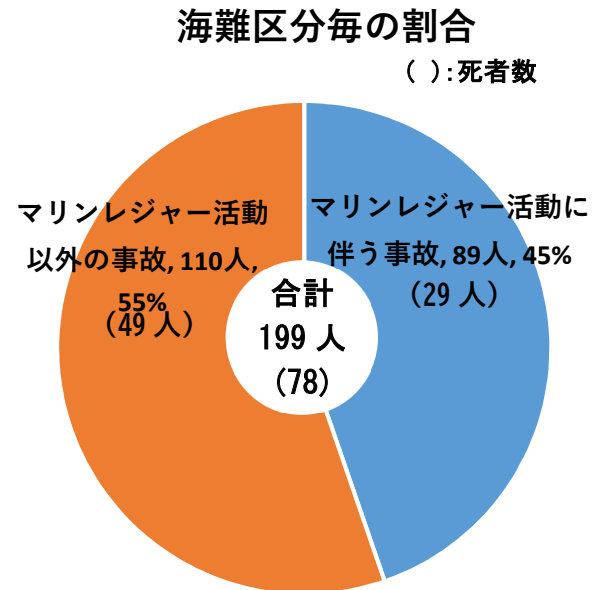


図 2-4

➤ 過去10年間におけるマリレジャー活動に伴う事故の割合は全体の45%(89人)、マリレジャー活動以外の事故は55%(110人)となっています。

※ マリレジャー活動以外の事故とは、作業時における岸壁等からの海中転落・負傷、自殺、船舶からの海中転落、船内における病気、負傷等

## II - 4 マリレジャーに伴う事故者数の推移〔過去10年（H26～R5）〕

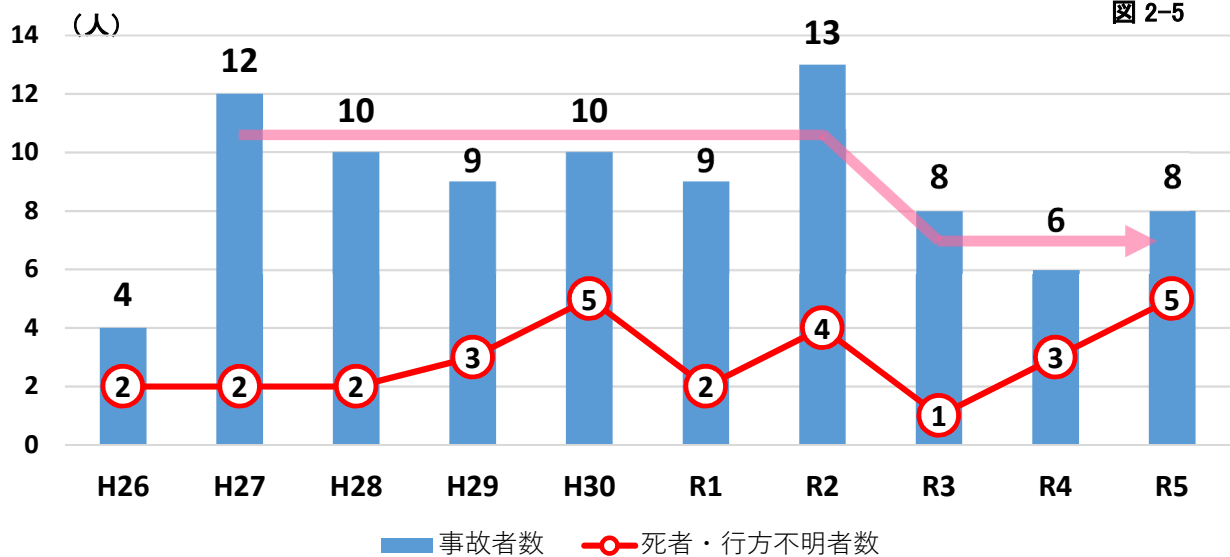


図 2-5

➤ 令和5年のマリレジャーに伴う事故は8人（昨年比2人増）でした。全体的に見れば令和3年以降、減少傾向で横ばいに推移しています。

➤ 令和5年の死者数では5人で令和3年以降増加傾向となっています。

## II-5 マリンレジャーに伴う海浜事故発生状況（活動別）〔R5・過去10年（H26～R5）〕

マリレに伴う発生状況（令和5年）

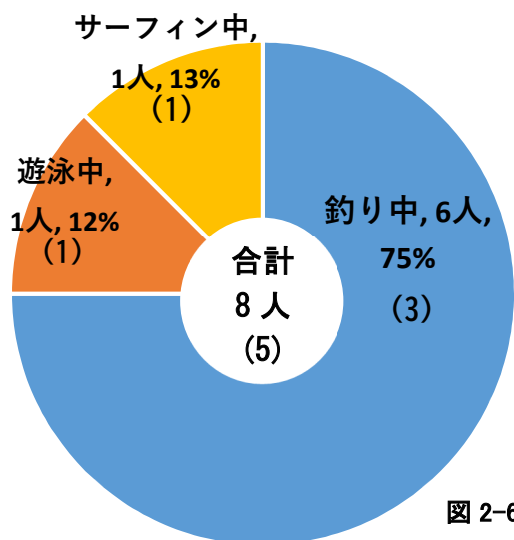


図 2-6

マリレに伴う発生状況(過去10年)

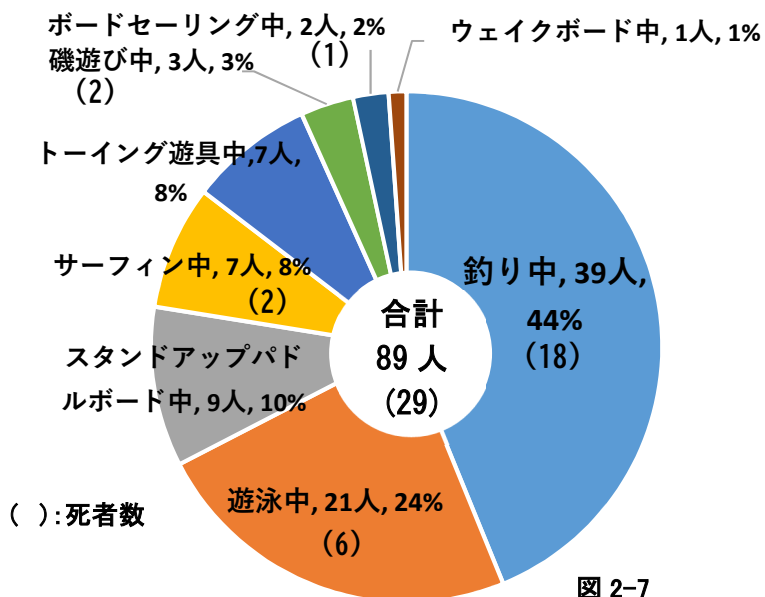


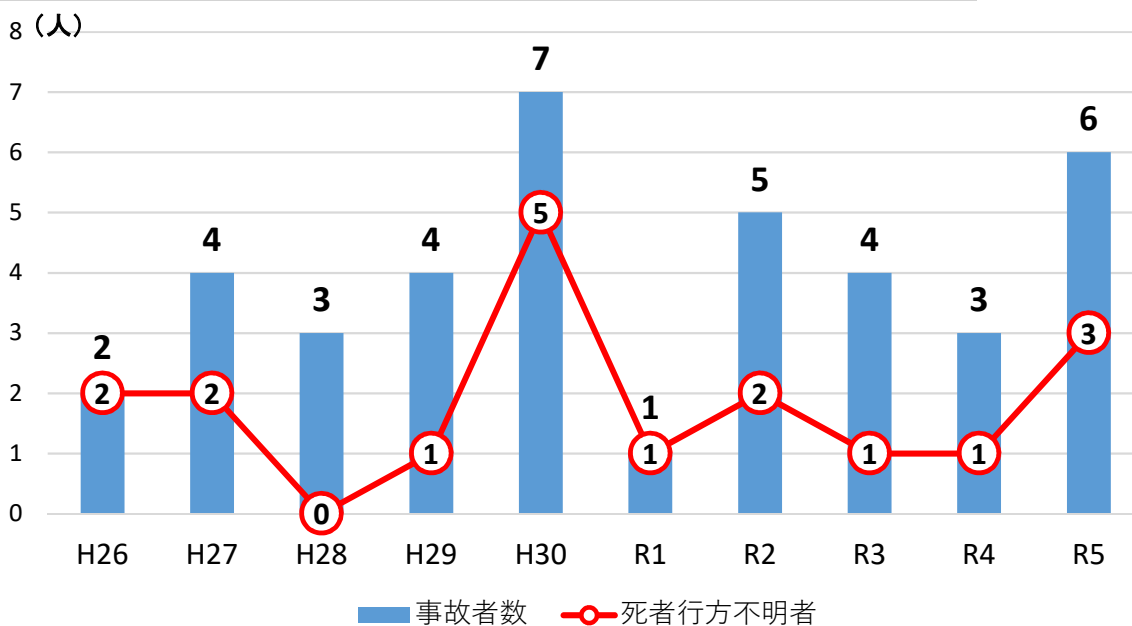
図 2-7

※ マリレ: マリンレジャーの略

- 令和5年の事故は、釣り中が最も多く、遊泳中、サーフィン中の順となっています。
- 過去10年も釣り中と遊泳中の事故が最も多く、死者数は全体の8割を超えています。

## II-6 釣り中の事故者数の推移〔過去10年（H26～R5）〕

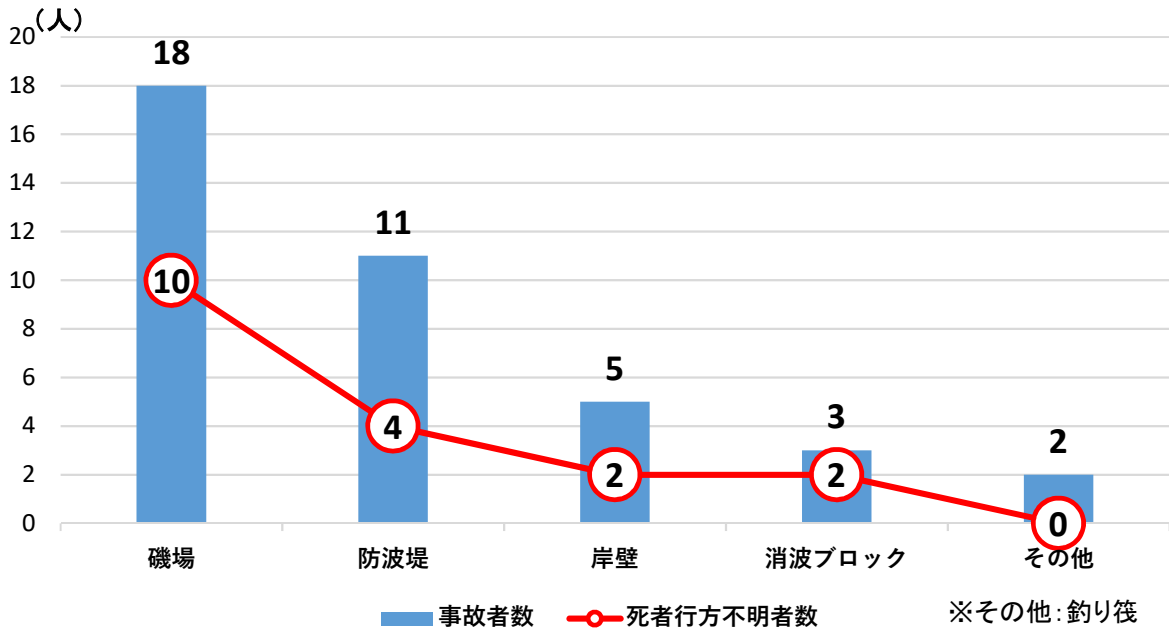
図 2-8



- 令和5年の釣り中の事故者数は、6人（前年比3人増）で、死者行方不明者も3人（前年比2人増）となりました。
- 過去10年では増減しながら推移しています。

## II - 7 釣り中の場所別発生状況〔過去10年（H26～R5）〕

図 2-9



- 過去10年間で見た釣り中の事故発生場所で、磯場での事故が最も多く発生しています。
- 死者数が多かった磯場では、5人が転倒、3人が波にのまれ、1人が突発的な病気、1人不詳（海中転落に至った原因が不詳）によるものとなっています。

## II - 8 釣り中の死亡事故発生状況〔過去10年（H26～R5）〕

### 釣り中の死亡者事故内容

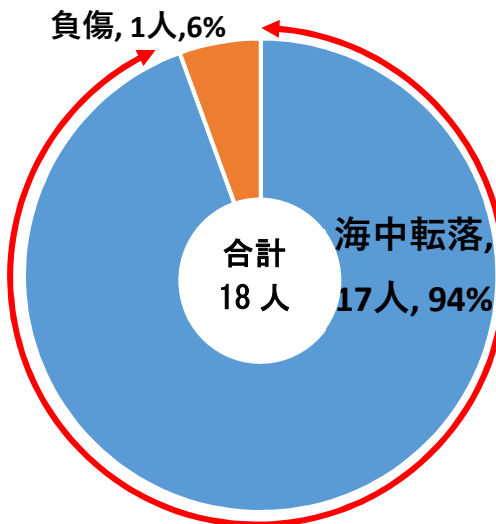


図 2-10

### 海中転落による死亡者の救命胴衣着用状況

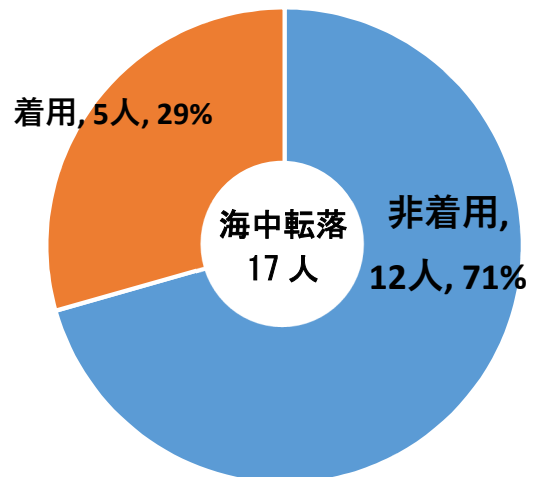
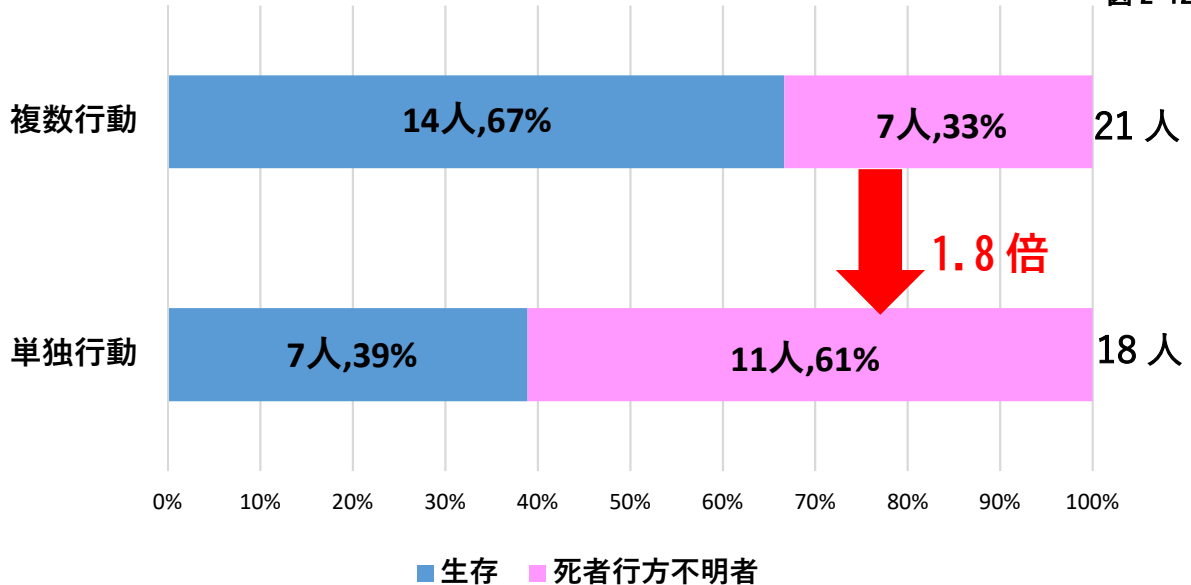


図 2-11

- 過去10年間、死亡事故の9割以上を海中転落が占めています。
- 海中転落で死亡した事故者の救命胴衣着用率は、非着用が7割以上を占めています。

## II - 9 釣り中の行動形態と死者・発生率〔過去10年（H26～R5）〕

図 2-12



単独行動における死者行方不明者は11人（61%）となっており、単独行動の死者の割合は複数行動の死者の割合の1.8倍となっています。

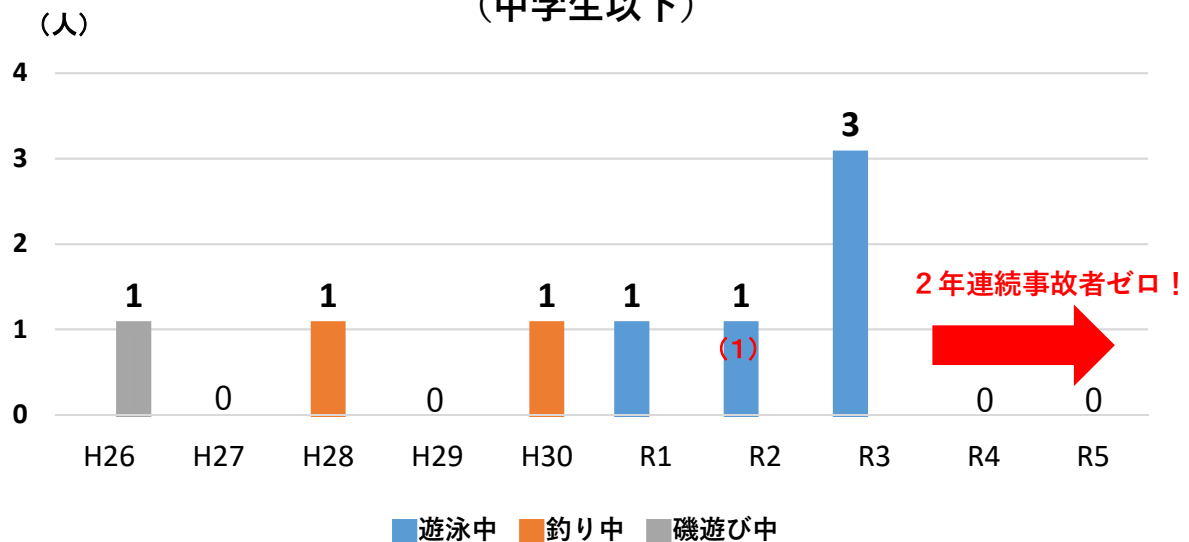
## II - 10 若年層の事故者数の推移〔過去10年（H26～R5）〕

図 2-13

### 若年層事故者の推移

(中学生以下)

( ): 死者数



- 令和5年では若年層（中学生以下）は2年連続となる事故者0を維持。今後も自治体や関係機関等と連携しながら、地域の若年層に対する「海の安全教室」等、啓発活動に取り組んで参ります。